

大飯再稼働

# 説明のシンポ開催を 福井県に「オール反原発連」



要請する林事務局  
長（左から2人目）  
ら11日、福井県庁

福井県の原子力発電に反対する県民会議、原発問題住民運動県連絡会など5団体でつくる「オール福井反原発連絡会議」は5日、再稼働の地元同意手続きが進む関西電力大飯原発3、4号機（同県おおい町）について公開シンポジウムを開催するよう県に要請しました。

福井県の南秀一県委員長、佐藤正雄県議が参加しました。林氏は、運転差止訴訟の控訴審（名古屋高裁金沢支部）で島崎邦彦・前原子力規制委員会委員長代理の証言により関電の安全性の主張が根本から崩れている状況にふれ、「審理が尽くされていない」と強調。福島原発事故原因などの徹底検証なしには再稼働を認めない

米山隆一新潟県知事と対照的な西川一誠知事の態度を批判しました。「知事が県民に向き合って話し合い、質疑を行う場を設けたことはない」と指摘し、公開シンポを開催するか、会側主催のシンポに県側が出席するよう要請しました。対応した山田清智原子力安全対策参事は「多くの発電所があり、それぞれ状況が異なる。住民に一番近い市町が実情に応じて対応することによって」と答えるにとどまりました。